

**YAMAGATA INTECH株式会社**<http://www.yamagata-intech.jp/>

概要

YAMAGATA株式会社（創業1906年）のドキュメント制作部門として、1983年に発足。自動車や家電、携帯電話、OA複合機などの各産業分野のマニュアル・仕様書の制作に加え、40以上の言語に対応した翻訳、システム開発・運用、XML制作など、幅広いコンテンツソリューションを提供している。



YAMAGATA INTECH

多言語展開するグローバル企業のマニュアルをFrameMakerにより短納期・低コストで作成

多言語マニュアルの短期間での制作にFrameMakerは不可欠なツール

YAMAGATA INTECHは、取扱説明書・マニュアルに特化した制作会社だ。自動車や家電、携帯電話、OA複合機などの製造業を中心に、マニュアル・仕様書の制作、翻訳、システム開発、XML制作などのコンテンツソリューションを提供している。翻訳では40以上の言語に対応し、マニュアル・仕様書制作の7割が日本語以外の言語が占める。ドキュメント制作と翻訳とが密接している点がYAMAGATA INTECHの制作現場の特徴である。

YAMAGATA INTECHでは、20年前から他社に先駆けてFrameMakerを手がけ、企業のマニュアル・仕様書の制作に向けたシステム提案を行っている。同社の取引先にはグローバル展開する製造業が多く、大量の言語に翻訳されたマニュアルを短納期で制作する必要がある。こうしたコンテンツの制作に、FrameMakerはなくてはならないツールになっていると、ソリューションユニット CMS開発 シニアスペシャリストの鶴田 正一郎氏は語る。

「当社は多言語展開を得意としており、印刷物やデジタルコンテンツの翻訳から制作までを一括して請け負っています。マニュアルを制作する際、一つの英語のリソースから40を超える言語に翻訳された構造化文書を短期間で制作するためには、FrameMakerのようなドキュメント作成ツールが不可欠です。データをXSL-FO（XSL フォーマット化オブジェクト）などに変換せず、後にマニュアルのデータを変更するための中間ファイルが必要なお客様には、ベストソリューションとしてFrameMakerを提案しています」

翻訳支援ソフトに取り込み 翻訳して開くだけの手軽さが魅力

YAMAGATA INTECHは、日本では「まったくと言っていいほど情報がなかった」という20年前からマニュアルの制作にFrameMakerを取り入れている。当時はFrameMakerについて解説した書籍などもなかったため、海外のパートナー企業から詳しいスタッフを講師として招き、レクチャーしてもらいながらFrameMakerを使った翻訳のワークフローを社内に構築していった。

「翻訳ソフトとの親和性がFrameMakerの大きなメリットでした。当時はPageMakerを使ってテキストを貼ってマニュアルを作っていましたが、FrameMakerではTRADOS等の翻訳支援ソフトにテキストを取り込み、翻訳して開くだけでマニュアルが完成できます。この手軽さは衝撃的でした。それから20年経った今では、我々のような日本語以外のドキュメントを取り扱っている制作会社にとってFrameMakerは定番のツールになっています」（鶴田氏）

YAMAGATA INTECHでは、コンテンツ制作のオペレーションを担当するスタッフのほぼ全員にあたる100名以上がFrameMakerの操作を熟知しているという。トレーニングを受けたオペレーターが次のオペレーターのトレーニングを担当するという研修制度を設け、約20年に渡るFrameMakerの取り組みで培ったノウハウを社内に蓄積している。



「ビジネスがグローバル化する中で、多くのお客様にとって商品の全世界同時発売が前提になっています。製造業にとって欠かせないマニュアルの制作・翻訳を通して、お客様のビジネスのサポートをしていきたいと考えています」

YAMAGATA INTECH株式会社
ソリューションユニット
CMS開発 シニアスペシャリスト
鶴田 正一郎 氏

修正の際の工数を大幅に減らし 制作費を大幅に削減するユーザー企業も

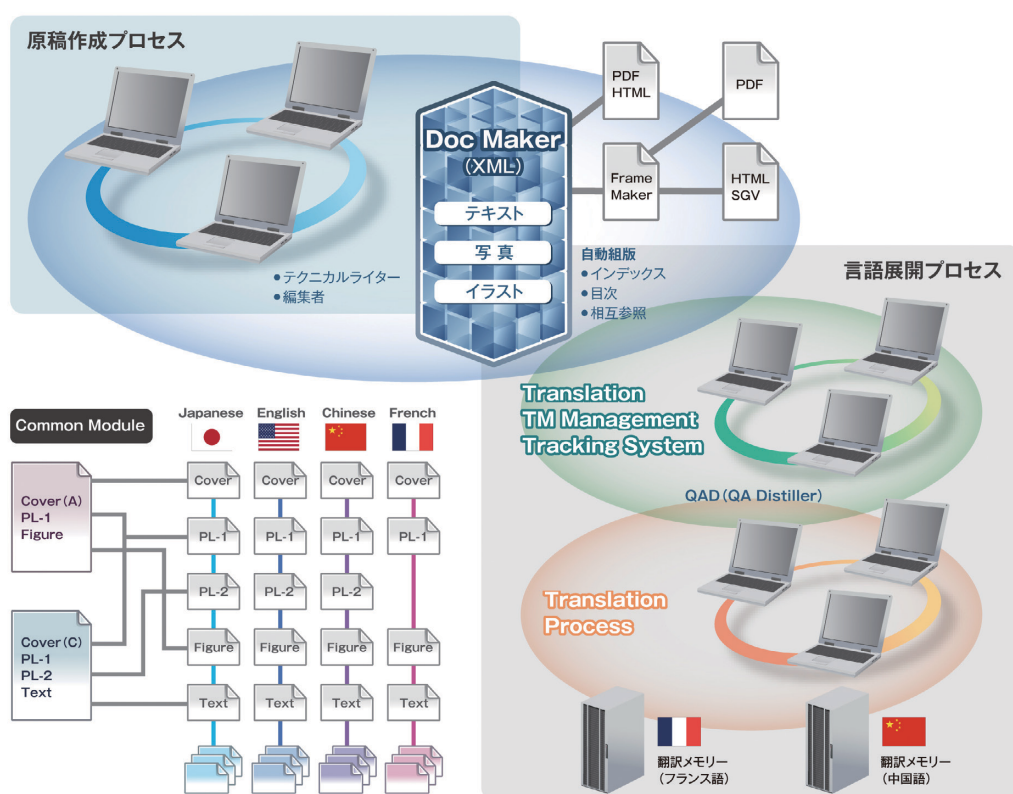
YAMAGATA INTECHは、豊富なマニュアル制作および翻訳実績を生かし、製造業の企業に向けてFrameMakerを組み込んだドキュメント支援システム「DocMaker」の提案・構築も行っている。

ある機械メーカーでは、このシステムを採用することで、ファイルの修正の際の工数を大幅に減らすことができ、最終的に制作費の大幅な削減につながったという。

「マニュアル改変に伴うDTPおよびXMLファイルの修正にかかる制作費をなんとか抑制できないか」とご相談をいただき、制作工程すべてを見直した結果、FrameMakerを使ったXMLによるシステム化をご提案しました。制作費の大幅な削減はもちろん、ドキュメントの多言語展開のスピード化にも貢献することができています」(鶴田氏)

また、別の製造業では、紙面レイアウトのそのままの状態でXMLファイルを作りたいという制作ニーズを、YAMAGATA INTECHの提案したシステムによって実現した。FrameMakerを使ったシステムを採用した企業のほとんどが、工数や制作時間の削減といった成果を上げることに成功していると鶴田氏は語る。

「見たままの状態でXMLの作業ができるマニュアルの制作ツールは、私の知る限りではFrameMakerだけです。また、FrameMakerと同じスピードで構造化文書を処理ができるソフトも他にはありません。大量の構造化文書を扱ってマニュアルや仕様書を作成している企業にとって、FrameMakerはドキュメント制作ツールの唯一の選択肢と言えそうです」



図：FrameMakerを組み込んだドキュメント支援システム「DocMaker」の概念図

旧バージョンとの互換性により 過去のドキュメントを資産として活用

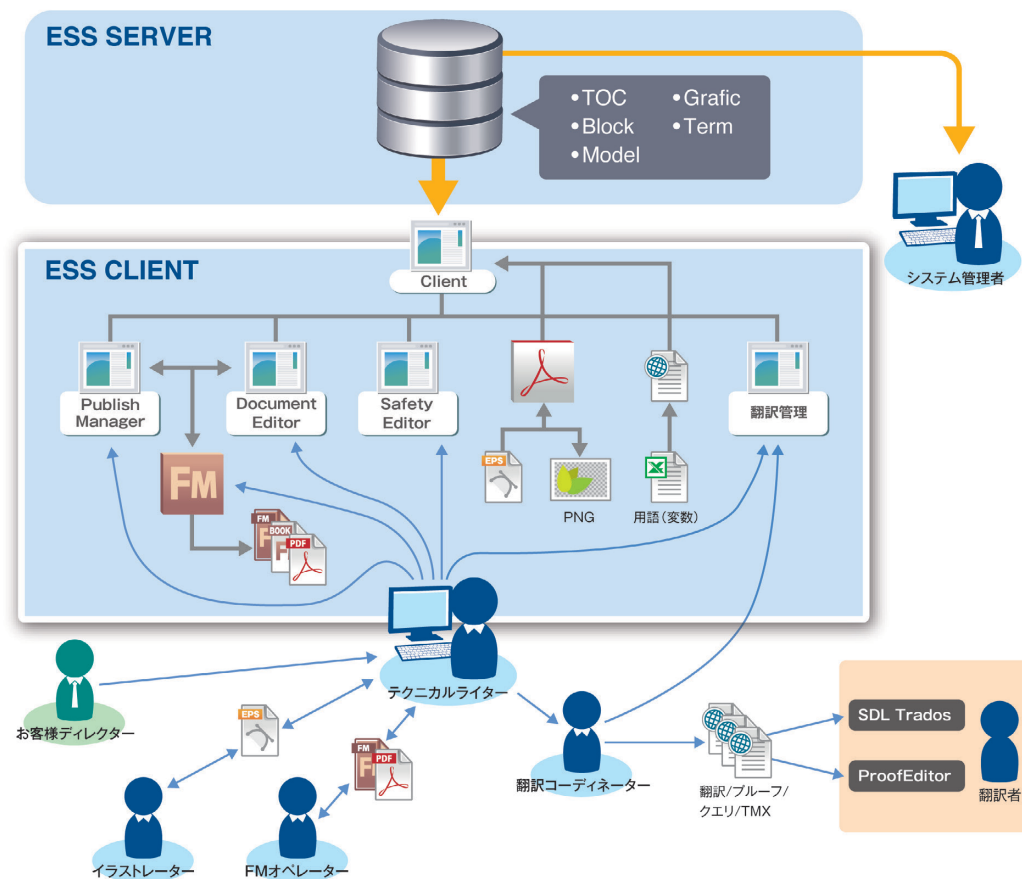
YAMAGATA INTECHでは数多くの製造業の取扱説明書・マニュアルを手がけており、ドキュメント作成ツールには、製品ライフサイクルを長期にサポートできる点が欠かせない。FrameMakerは旧バージョンとの互換性を重視しているため、新しいバージョンに切り替わっても過去に制作したドキュメントを資産として活用していくことが可能だ。

その一方で、FrameMakerは現場のニーズを汲み取った最新の機能も盛り込みながら発展している。次のバージョンではアラビア語やペルシア語などの右から左へと読むRTL (Right-to-Left) 言語をサポートする計画だ。現状、YAMAGATA INTECHではRTL言語のみ他のツールを使うことで対処しているが、「FrameMakerがRTL言語をサポートすれば、40以上の言語すべてを一つのツールで使えるようになり、さらに効率的なマニュアル制作を行うことができます」（鶴田氏）とFrameMakerの機能拡張に期待を寄せている。

旧バージョンとの互換性、要求度の高い最新機能の実装という2点に加え、直感的な操作ができるユーザインターフェイスもFrameMakerの大きな特徴だ。鶴田氏も、操作性や使い勝手の面からもFrameMakerの優位性を高く評価している。

「XMLエディタでの入力にはプログラミングを打つような難解さがあり、初めて使う人には取っつき易いものではありません。その点FrameMakerは、たとえばタイトルという書式を選べば帯の付いた大きなフォントの文字に変換するなど、わかりやすいユーザインターフェイスで比較的簡単に構造化データを入出力できます。また、作成した紙面レイアウトのままの状態でもXMLの編集ができる点も大きなメリットです。こうした観点でも、FrameMakerは我々の業務に欠かせないツールになっています」

今後、さらに製造業のグローバル化が進む中で、マニュアルの短納期の多言語展開はますます重要度を増すと考えられる。YAMAGATA INTECHでは、FrameMakerを活用したシステムを通して、顧客である製造業のマニュアル制作を支援していきたい考えだ。



図：FrameMakerを組み込んだドキュメント支援システム「ESS」の概念図

製品に関する詳細

www.adobe.com/jp/products/framemaker



アドビ システムズ 株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎 イーストタワー
www.adobe.com/jp

Adobe Systems Incorporated
345 Park Avenue
San Jose, CA 95110-2704
USA
www.adobe.com